

静岡河川事務所 調査課 ○○様 並びに皆々様

前略

先頃、三月末に、ご挨拶の手紙を頂きました静岡の杉村和高です。今まで何人もの皆様にはほぼ同文の手紙をお送りしていましたが、手紙を受け取って頂ける正式な部署の皆さんからご連絡を頂き嬉しく有難く思っています。

この手紙では論点を絞って三つの事柄について、お忙しいところではあると思いますが、ご返事を頂きたくお願い申し上げます。

先ず第一。

コンクリート護岸の岸辺に発生する「洗掘」に関して、従前より度々論述を公開し、皆様にもお知らせしていましたが、その防止方法について具体的な説明は必ずしも充分ではありませんでした。そこで、先頃、「洗掘防止方法」をより具体的に説明する頁を公開しましたのでお知らせします。

この「洗掘防止工法」は、今までにない考え方による工事方法で、これによって、安倍川に限らず全国で発生しているコンクリート護岸や橋脚の洗掘を防ぐことが出来ると考えています。

＞河川上流中流の土砂流下と堆積の規則性を考える

＞河川上流中流と海岸を回復させるための新たな工事方法

＞（８） 「石や岩による自然の土砂堆積を利用する洗掘防止工法」

<https://keiryuu.sakura.ne.jp/Keiryuu01/koujihouhou/Koujihouhou08.html>

是非、皆様でこの頁をご覧いただき、その可能性についてご討議願えればうれしく思います。さらに、それに対する皆様のお考えをお知らせ頂ける事を願っています。もちろん、詳細等ご質問があればお知らせください。

第二、第三。

3月29日付けで頂きましたお手紙では、私が1月27日にお送りした手紙について言及されています。しかしながら、その内容は儀礼的な挨拶に留まるものであり、何ら具体的な意味を持たないものである事は、○○様を始めとする調査課の皆様も充分にご承知の事と思います。そこで、この問題について改めて質問を致します。

私は、現在の安倍川の荒廃した状況について大きな危機を抱き、その原因として、「砂防堰堤」と「コンクリート護岸」の設置を指摘しています。

それらは、その設置場所では極めて効果的な様相を見せていますが、河川

全体の土砂流下と堆積の規則性を考えると、明らかに不都合な状況を数多く発生させています。その状況は安倍川に限らず、全国の全ての河川において生じている事です。この現実を〇〇様や調査課の皆様はどのようにお考えになっているのでしょうか。それについて是非ともご返事を頂きたいです。

たまたまではありますが、先日「家山川」で不幸な水難事故が発生しました。現場の状況と、島田土木事務所の〇〇〇〇様の見解をWEB上の動画で拝見しました。鉄橋の橋脚部分は全ての川床をコンクリートで覆い、そのすぐ下流側は段差となっているので数多くのコンクリートブロックが設置されていました。死亡した少女は、ブロックとブロックの間に出来た深みから発見されたとのことでした。

橋脚の下川床のコンクリートも、その下流側の段差も、数多くのブロックも全て残念な工事でした。それらは、その場所よりも上流にある、多くの「砂防堰堤」と「コンクリート護岸」によって必然的に設置せざるを得なかった工事であったのです。つまり、橋脚を建設した当時には大きな石や岩も多くあり、橋脚に洗掘が生じる事も無かったのです。しかし、上流に「砂防堰堤」が多く設置されたことにより石や岩の流下量が減少して、周囲も「コンクリート」護岸が設置されたので、流れて来た石や岩もその周囲にとどまる事が出来ずに、橋脚に洗掘が発生する可能性が大きくなりました。ですから、川床を全てコンクリートで覆ったのです。もちろん、それでも石や岩が段差に止まることはありませんから、深く洗掘されるのを防ぐために大量のブロックを設置した経過が考えられます。動画では、鉄橋のすぐ上流側に木々が成長した中州がある事も撮影されています。これも、兩岸にコンクリート護岸が設置されたときに出来る不具合です。

その現場で少女が溺れ、容易には発見することが出来なかった事は、明らかに現場の工事が原因であったのです。その付近の河川の状況を考えると、現場の状況が昔からの自然環境であったならば、思いがけない事故が発生する可能性はずっと少なかったのではないのでしょうか。

何年か前には藁科川の「木枯しの森」近くでもコンクリートブロックによる同様の少年の死亡事故もありました。おそらく、日本全国で同様の水難事故が数多く発生していることは間違いがないでしょう。

それら全ての水難事故原因が、間違った工事方法によるものであると考えているのではありません。でも、悲しい事故が、「砂防堰堤」と「コンクリート護岸」がもたらした残念な結果の一つである事は間違いありません。

また、昨年の黄瀬川の橋脚流失も上記と同様の経過をたどったものであると考えています。流失した橋脚の直ぐそばにはコンクリート護岸があり、そ

の場所は屈曲部の外側の直ぐ下流で、流れが速い場所だったのです。橋脚流失の原因は、上流から石や岩が流れて来なくなって必然的に発生した洗掘現象にあったと思います。でも、私が、〇〇様や調査課の皆様をお願いしたいのは、水難事故の事ではありません。

私は、幾つもの状況から、安倍川を始めとして日本中の河川の自然環境と治水状況が悪化していると判断しています。また、その原因として「砂防堰堤」と「コンクリート護岸」を挙げています。この二つの事柄について、黒田様ほか皆様の率直な考えをお報せ頂きたいのです。

私は、上流中流の長年の観察と考察から、上流中流に多くある石や岩を始めとする様々で大量の土砂には、流下と堆積に関わる規則性がある事に気付きました。そして、その観点から考えて「砂防堰堤」と上流中流の「コンクリート護岸」は間違えた工事方法であると判断するに至りました。ですから、その事を論述してWEB上に幾つも掲載し、それらの事を皆様にご理解を頂くために、それらをお知らせし、質問する手紙を河川事務所の皆様やフォローアップ委員会の皆様に度々お送りしています。

ところが、それらの率直なお知らせ或いは質問に対して、ほとんど何らのご返事が頂けないのです。これは、全く不可解な事です。手紙をお送りしているのは、河川とその工事に関わる事を専らの仕事としている皆さんであり、特に河川事務所の皆さんであれば安倍川に関わる事柄は誰よりも詳しい専門家なのです。ですから、もし私の説明に不明な事柄があるなら或いは間違えているとお考えでしたら、何らかの質問や反論があるはずですが。或いは賛同の意見があってもおかしくないのです。でも、なんらご返事がありません。実に不思議です。

たった一度の手紙や質問であるなら、或いは思い付きに過ぎない主張であるとお考えならご返事を頂けなくても仕方ないかも知れません。しかし、私は、記述しているほとんどの事柄について、明確に幾つも実際の現象を文章と写真で示し、論理的にそれ等を説明して幾度も手紙を差し上げています。

率直に言って、私は、河川事務所の皆様やフォローアップ委員会や同作業部会の皆様に不信感を抱いています。皆様は何の能力も無い、或いは人間として誠実さに欠けた信用できない方々であるかもしれない、とまで考えています。

以前、平成 26 年 8 月 15 日（2014 年）私は、静岡河川事務所所長 〇〇 〇〇様よりご返事の手紙を頂きました。〇〇様は、私の質問に対して誠実に

自らの考えを明らかにして、安倍川と静岡海岸の残念な状況を率直に認めそれらを改善する方法について真剣に取り組んでいる事を説明されています。

その後も、幾度も河川事務所やフォローアップ委員会や同作業部会の皆様に手紙をお送りしました。しかし、〇〇様に続く何人もの所長やその部下及び委員会の皆様には、〇〇様ほどの誠意は全くありませんでした。

どうか、〇〇様や調査課の皆様が、残念なそれらの方々と同じでは無い事を明らかにして頂きたいと願っています。2020年5月に河川事務所の皆様宛に同じ手紙を幾通もお送りした中に、〇〇様からのその手紙を引用していますので、その手紙を同封しました。参考にして頂ければ幸いです。

私が〇〇様始め調査課の皆様に求めているのは以下の三点です。

第一、河川工事の専門家として、新たな工法をどの様に評価するのか。

第二、安倍川の現状をどの様に評価しているのか。私は、安倍川の自然環境も治水状況も年ごとに悪化していると考えています。とりあえず、10年前、或いは20年前と比べてどうであるのか、お考えをお聞かせ下さい。

第三、私は、「砂防堰堤」のほとんどが間違った工事である事と、上流中流の「コンクリート護岸」は全て間違いである事を主張しています。この考え方をどの様に評価しているのでしょうか。安倍川を職務として担当する国家公務員として技術者として恥じる事の無いお考えを具体的にお聞かせ下さい。

当然の事ですが、フォローアップ委員会、同作業部会の皆様にも必ずご連絡を頂き、そのご返事も頂けるものと考えています。

また、この手紙に先立ち、蒲原海岸出張所、駿河海岸出張所、島田出張所、の皆様にもそれぞれの課題について提案の手紙をお送りしています。それらの皆様からもお手紙を頂きたいと考えていますので、その旨を調査課から皆様にお伝え願います。

私の考えや主張は論述や写真にして全てWEB上に掲載してありますので、それらを参考にして頂きたいと思います。

なお、錯綜して全体の理解を妨げていた先頭ページのメニューも新たにしましたので、上記以外の多くの事柄もより理解して頂けるかと考えています。

<https://keiryuu.sakura.ne.jp/index.html>

草々

2022年5月10日

420-0884 静岡市葵区大岩本町 25-37 フローラル城北C-201

杉村和高